

3月3日、日南市北郷町大藤河川公園多目的広場にて、令和5年度第20回宮日杯県ミニ・タグラグビー大会が開催されました。長かった冬も終わり、山肌には淡いピンク色の山桜が開花し、会場までの道端には菜の花が咲き乱れ、心待ちにしていた春がやってきました。大会当日は、素晴らしい天気にも恵まれ、県下ラグビースクールの子供達、指導者、保護者、大会関係者において最高の環境の中で戦いの火蓋が切って落とされました。今大会は、20回の節目となる大会でした。大会では、20回大会を記念して各カテゴリー上位チームの表彰と新たに県ラグビー協会より総合優勝杯を創設いただきました。各カテゴリーでの勝利総合ポイント獲得最上位のスクールが表彰されるということで、スクールのプライドを掛けた戦いが見られた大会にもなりました。

大会では、どのカテゴリーにおいても、たくましさや頼もしさが見られ、心身ともに成長を感じることが多くありました。プレーヤーとしてのスキルだけでなく、相手を思いやる心の成長を感じました。**ONE FOR ALL!** チームの為に一人ひとりが献身的に体を張って戦い、**ALL FOR ONE!** みんなは、その一人に素早く駆け寄りサポートする場面が多く見られました。試合の終わりを告げるホイッスルが鳴った瞬間、お互いの健闘をたたえる場面がとても爽やかでノーサイドの精神が宿った子供達の姿に感動した瞬間でもありました。そして、この一年間でそれぞれのスクールが「ワンチーム」となった瞬間でもあったように思います。また、エキシビジョンマッチでは、まず、幼児クラスのリーグ戦が行われました。未来を支える「ちびっ子ラガー」のプレーは、宮崎県のラグビー界に頼もしさを感じさせる内容でした。もう一つ、新設の「ママタグ」は、各スクールの女性保護者代表によるタグラグビー戦が行われました。低学年のコートサイズで行われましたが、キレのいいステップやタイミングの良いパス、ランが見られました。コート周囲でのスクール毎の応援が、対戦中の保護者のエネルギーになったと思いました。

さて、毎大会を支えていただいている宮崎日日新聞社様、県ラグビーフットボール協会、県教育委員会、協賛企業の(合)サザンラガー様には、今大会においても多大なる御支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。これからの宮崎県、日本を支える子供達を、ラグビーを通じて心身の育成が図れる一つの大会として、今後ともご支援をお願いしたいと思っております。また、大会運営において準備から片付けに至るまで、日南地区ラグビー協会を中心に各地区ラグビースクールより協力員、普及育成委員会タグ部門、スクールOBの中学生を含め多数の協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。

最後に、宮日杯県ミニ・タグラグビー大会の20年の歴史に感謝と敬意を表します。次の10年に向けた取り組みにもこれまで同様、皆様と共に前進していきたいと思っております。子供達がラグビーを楽しめる環境作り、仲間作り、そして地域作りに繋げることに尽力させていただきます。今後とも多方面の方々と知恵を出し合いながら、大会を盛り上げられるように努めたいと思っております。